

第2学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 作ることを楽しみ、意欲的に学ぶことができている。
 - 話型を提示すると、自分の表現したことを相手に伝えることができる。
- 課題**
- ▼ 友人の言葉に直ぐに反応し、作業に集中できていない面がある。
 - ▼ 落ち着きがなく、説明を聞くことや同じ作業を続けることが苦手な児童が多々いる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自分の感覚や行為を通して形や色に気づき、楽しんで制作する力。
- ◇ 自分のイメージを持ち、どのように表すか考える力。
- ◇ 用具の使い方を理解し、活動や表し方を工夫する力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- めあてを具体的に提示し、その日のゴールを明確にする。
- 材料や用具の特徴が伝わるように素材や表現方法を比べて、表現の多様さを示す。

言語活動の工夫

- 造形的な見方を提示し、振り返りなどで形や色の特徴を言葉で表す機会を増やす。
- グループになって他者の作品の魅力を言葉で伝える。

ICT活用の工夫

- パワーポイントで情報を整理し、作業過程を分かりやすく表示する。
- 実物投影機を使って制作方法や制作ポイントを伝える。

課題解決力育成の工夫

- 「発見タイム」を設け、友達の作品の良さや工夫を見付け、自分の制作に生かしていく。
- 自分のイメージを周りの友達や教員に共有しながら、共に考えていくように促す。

達成目標

- 自分のイメージに合わせて材料や用具を使えるようになる。
- 造形的な面白さや楽しさを感じながら、表したいものを表せるようになる。
- 楽しく表現したり鑑賞したりすることができる。